

	主な意見
<p>①整備計画の実現に向けた体制について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 整備計画の実現に向けた体制について <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元団体の世代交代の必要性を強く感じている。整備計画の策定においても、まちを利用する人々の意見を取り入れるために、地元団体とキャッチボールをすることには賛成である。商店会はもちろんのこと、町内会や様々な方が入ったうえで新しい町田を作っていくという形にしていきたい。 ・ 市やまちづくり公社、商工会議所などの関係者が集まることによって、しっかりとした意見調整ができると思う。 ● プロジェクトチームによるプロジェクトの走り出しについて <ul style="list-style-type: none"> ・ 整備計画における各プロジェクトは、誰に参画させるか、どのように声をかけるかが一番のポイントになる。 ・ 「原町田大通り賑わいと憩いの空間形成」について、各プロジェクトの中でも最初にやりやすい場所であるので、始めていくべきである。 ・ 何のために、誰が、どうしてそれをやるか、というものが無いと実施は難しいのではないか。 ・ 「原町田大通り賑わいと憩いの空間形成」について、走り出させてみることは良いと思うが、他のプロジェクトで並行してやらないといけないものはないか検討するべきである。 ・ プロジェクトの走り出しは、「原町田大通り賑わいと憩いの空間形成」に限らず他のプロジェクトでもやっていくべきであるが、原町田大通りの場合は、既に検討が進んでいる主体があるので、そこをベースに実験をしながらやっていきたい。 ・ 整備計画を作りながら一部実証実験をやっていくことは、市民に対する広報的な効果も期待できるので、非常に意義のあることである。
<p>②まちづくりの方向性について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● まちづくりの方向性について <ul style="list-style-type: none"> ・ 駅前のテナントについては、量より質を重視し、特色があり且つ需要のある機能を入れていきたい。 ・ 「町田の名物は人」、「人がまちのためになる何かを作り出してくる」という理念を、整備計画の中に入れた方がよい。 ・ 今の中心市街地はかなり整備させているので、あまりいじらずにいかに商店街を利用してもらうかを考えた方がよい。 ・ <u>子どもを含めた社会の循環を、まちなかでどうやって作るかが非常に大切である。</u>中心市街地にマンションが増えると子どもの数も増えるため、地域自体をつくっていくことを考えていかなければならない。 ● 「働く場」の視点の必要性について <ul style="list-style-type: none"> ・ 商業や文化、暮らしなどに加えて、「産業の集積」の視点も必要である。昼間人口が増加するとまちが活性化する。 ・ サービス・雇用・税収は三位一体なので、質を高めるには事業が興されるような環境が必要である。計画策定に当たって、もっと商業や事業をおこす部署の視点も入れながら柱を立てた方がよい。 ・ まちの中で生産活動を行うことは非常に重要なことであるので、千葉県柏市の豊四季台団地のように、<u>高齢者が働き、存在意義を感じられるような場所を作った方がよい。</u>また、若者向けにオフィス床だけではない働く場を設けることも重要である。 ・ 飲食店は新規参画者が増えてきているが、小売りは経営が成り立たず、新規参入が難しい状況にあるので、そこを支援する仕掛けをつくってはどうか。ローカルブランドの発信みたいなことがあるといい。 ● 中心市街地の回遊性について <ul style="list-style-type: none"> ・ 平日の中心市街地には高齢者が多く居るので、高齢者の回遊性を考えていく必要がある。 ・ 芹ヶ谷公園と商店街を結ぶ動線をつくることは難しいと思われるので、極端ではあるが、回遊性を持たせるためには劇場や映画館の整備が必要なのではないか。 ・ シバヒロでのイベント等によりシバヒロへの人の流れは増えているが、5年、10年後にまた方策を考えることになっており、先を見通しながらグレードアップさせていくと良いのではないか。 ● 若い人たち（小中高生）のまちづくりへの参加の必要性について <ul style="list-style-type: none"> ・ 今中心市街地で暮らしている人たちが「暮らし続ける」という視点が欠けている。町田を終のすみかとして選んでもらうという発想もあった方がよい。まちづくりの次の担い手となる人は、事業者の二代目・三代目よりも、中心市街地に住み続ける人が主体であるので、<u>今後住み続ける人（小中高生）が活躍する場をつくるべきである。</u> ・ 中心市街地の利用者である若者が主体となってチャレンジできる環境が必要であり、<u>イベントなどやりたいと思った時にどう相談を持ちかけたらよいか</u>がわかるようにした方がよい。今の進め方イメージでは、商店街活性化がメインに見えてしまう。若い人たちに「町田では色んなことができて面白い」と思ってもらうことが重要。 ・ 子どもセンターは中高生が活躍できるビジネスの場や、学校になる可能性を持っているので、周辺の資源に入れた方がよい。 ・ 市としては、福祉系や学校教育系の部署とも連携していくことが必要。

	主な意見
③まちづくりの進め方について	<p>●プロジェクトの進め方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「広域交通拠点の整備」は、どうやって進めていくのか具体的なイメージができない。 ・「担い手の拡大を図る」ということだが、特に「広域交通拠点の整備」や「原町田1丁目地区拠点整備」について、<u>関係者が多くなり過ぎて事業のスピード感が失われる懸念があるので、コントロールの仕方が重要である。</u> ・回遊性の持たせ方やどういった軸を設けていくのがよいか、交通事業者として各プロジェクトとの連携を取りながら進めたいので、その都度協議をしたい。 <p>●総合プロデューサーの必要性と市の役割の重要性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのプロジェクトを磨いて価値を高めていくという視点が大切であるが、「官民連携まちづくりのプロジェクト」のみで磨くことができるのか検討をするべき。磨き上げていく担い手は、それぞれのプロジェクトの担い手だけでやるのか、別の立場の担い手が居た方がいいのかも検討した方がいい。 ・<u>実際にプロジェクトを進めていく際には、市のまちづくり部局がエリアへの落とし込みやマッチング、更には関係するプロジェクトチームに絡む人をまとめ上げる役割を担う必要がある。</u> ・今のまちづくりの進め方のイメージでは、行政の覚悟が見えにくく、すべて民に投げている印象を受ける。「森野住宅周辺地区 団地再生に伴うまちづくり」だけでも「行政主体で進めていく」という図にした方がいい。 ・<u>各プロジェクトにおいて市の役割がしっかり分かるようにした方がよい。</u>また、それぞれのプロジェクトを進行させていくに当たり、<u>総合プロデューサーを誰が担っていくのかが課題である。</u> ・特にハード整備については行政の覚悟が必要であるので、それが整備計画に見えてくるといい。
④整備計画のまとめ方	<p>●整備計画のまとめ方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各々のプロジェクトを一つ一つのレシピーシートのようなものにまとめると分かり易いし、後でプロジェクトを付け加えることが容易になるのではないかと。 ・<u>10個のプロジェクトについて、それぞれの進め方イメージを整備計画の中で示した方がよい。</u> ・プロジェクトによっては具体的な目標と手段が必要なものもあるので、整備計画は「道しるべ」という位置づけだけにはならないような工夫が必要である。